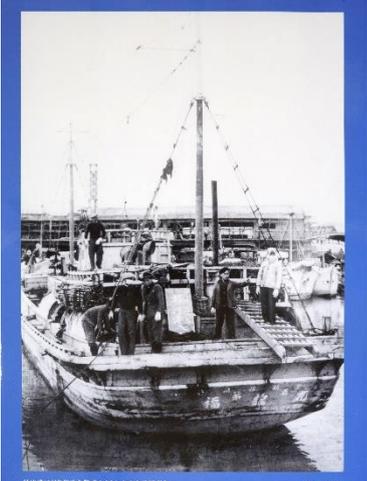


第五福竜丸展示館 展示パネルリスト

1. 第五福竜丸
2. 水爆実験ブラボー
3. 第五福竜丸の被災
4. 第五福竜丸23人の乗組員
5. 邦人漁夫、ビキニ原爆実験に遭遇 読売新聞 昭和29年3月16日
6. 久保山さんの死
7. 焼津港に帰り厳重な警戒のもとにおかれる福竜丸
8. 焼津共立病院にて緊急の検査を受ける乗組員たち
9. 水爆被災 初の犠牲者
10. 久保山さんの遺骨は9月25日東京駅から焼津へ向かった
11. 「原爆マグロ」と放射能雨
12. 放射能の雨降る、高まる不安、国民の生活に大きな影響
13. 太平洋の広い海が放射能で汚染された
14. 核実験・核兵器反対運動おこる
15. 太平洋の楽園に死の灰が降る
16. 水爆ブラボー爆弾
17. 世界の核実験被害
18. ラッセル＝アインシュタイン宣言
19. 廃船から保存運動へ
20. 都立第五福竜丸展示館

5		<p>邦人漁夫、ビキニ原爆実験に遭遇 読 売新聞 昭和29年3月16日</p>
---	---	---

6	<p>久保山さんの死 Death of Mr. Kuboyama 山久保山 久保山 久保山 先生 先生 久保山 久保山 先生 先生</p> <p>第 五 福 竜 丸 は、マクローをたる延縄を引き揚げ、全速力で日本に向かい、2週間後に母港の焼津港に帰りつきました。</p> <p>3月16日の「読売新聞」で最初に報道され、日本中を驚かせました。乗組員、船体、道具、マクローが強い放射能で汚染されていることがわかりました。</p> <p>乗組員は3月下旬、地元の病院から全員東京に移され、東大病院と国立第一病院に入院しました。そして1年28日にわたり治療がおこなわれました。</p> <p>治療のためには水産「ブラボ」の資料が必要でした。しかし、アメリカ政府は資料についての問い合わせに回答しませんでした。そこで、東大、静岡大、金沢大、大阪市大などの化学者が協力をあけて「死の灰」の分析をしました。乗組員にたいし、医師団による熱心な治療がおこなわれました。</p> <p>しかし、懸命な治療にもかかわらず、福竜丸の乗組員であった久保山愛吉さんが9月23日に亡くなりました。40才でした。久保山さんは死の前に「原爆症の被害者はわたしを最後にしてほしい」と語りました。</p>	<p>久保山さんの死</p>
---	---	----------------

7		<p>焼津港に帰り 厳重な警戒の もとにおかれる福竜丸</p>
---	---	-------------------------------------

8		<p>焼津共立病院にて緊急の検査を うける乗組員たち</p>
---	---	------------------------------------

9

水爆被災 初の犠牲者

10

久保山さんの遺骨は9月25日
東京駅から焼津へ向かった

11

「原爆マグロ」と放射能雨

12

放射能の雨降る、高まる不安、
国民の生活に大きな影響

1 3



太平洋の広い海が放射能で汚染された

1 4

核実験・核兵器反対運動おこる

International Anti-Nuclear War and Weapon Movement
 世界核兵器廃絶運動の国際的連携・核兵器反対運動
 世界核兵器反対運動の国際的連携

この資料から日本各地で原水爆に反対する運動がおこり、世界中の運動へと広がって行きました。

第五編 東京の原水爆反対の運動 (1954年3月18日)には神谷川長三編者(編者の一語)の運動は「原水爆禁止の決議」をおこない、3月20日には東京府議会が原水爆禁止を決議しました。

4月25日には、参議院と衆議院が核実験禁止、核兵器使用禁止の国会決議をおこない、全国各地の自治体が原水爆禁止・実験禁止を要求する決議を行いました。

東京・神奈川の公民館で学習していた女性たちが、5月、原水爆禁止の署名運動をはじめ、また全国各地でも署名が広がって行きました。8月には原水爆禁止署名運動全国協議会が組織され、同年夏までに3000万人が署名しました(当時の日本の人口は4600万人)。

第五編 東京の原水爆反対の運動 (1955年17日)は、哲学者ハートランド・ワッセルと物理学者アルベルト・アインシュタイン博士が中心となり、日本のノーベル賞受賞者湯川秀樹博士をはじめ日本人の著名な有名人達が名を連ねて「ワッセル・アインシュタイン宣言」を宣言しました。ここには次のようなことが書かれています。

——とくにベネチアの試験場、核兵器は想像されていたより遙かに広い範囲にわたって徐々に破壊力を広げることを知らぬ限り——
 ——人間に破壊をもたらすか、それとも人間が戦争を放棄するか——
 8月には広島で、第1回の原水爆禁止世界大会が開かれました。

核実験・核兵器反対運動おこる

1 5

太平洋の楽園に死の灰が降る

アメリカが行った67回の核実験の死の灰は目には見えない、しかし、“楽園”と呼ばれるマーシャル諸島の風を人びとをいまもなお悩ましています。

1954年3月1日に行われた水爆ブラボー実験によって作られた直径2000メートル、深さ60メートルのクレーター、吹き飛ばされた軍用機は死の灰となってマーシャル諸島の島々に降り落ちました。

資料: 原水爆禁止宣言

「原水爆禁止宣言」は、1955年17日に、哲学者ハートランド・ワッセルと物理学者アルベルト・アインシュタイン博士が中心となり、日本のノーベル賞受賞者湯川秀樹博士をはじめ日本人の著名な有名人達が名を連ねて「ワッセル・アインシュタイン宣言」を宣言しました。ここには次のようなことが書かれています。

——とくにベネチアの試験場、核兵器は想像されていたより遙かに広い範囲にわたって徐々に破壊力を広げることを知らぬ限り——
 ——人間に破壊をもたらすか、それとも人間が戦争を放棄するか——
 8月には広島で、第1回の原水爆禁止世界大会が開かれました。

太平洋の楽園に死の灰が降る

1 6

水爆ブラボー爆弾は、ドネニ島近くのサンゴ礁上の熱帯で開発。その威力は実験が予想した3倍もの15メガトンで、サンゴ礁には深さ60m、直径2000mのクレーターが残り、この水爆実験によって、マーシャル諸島のほぼ全域に放射能が降った。アメリカは後に報告しています。被災した住民たちはアメリカにたいし賠償を求め、賠償の交渉が続けられています。

資料: 原水爆禁止宣言

「原水爆禁止宣言」は、1955年17日に、哲学者ハートランド・ワッセルと物理学者アルベルト・アインシュタイン博士が中心となり、日本のノーベル賞受賞者湯川秀樹博士をはじめ日本人の著名な有名人達が名を連ねて「ワッセル・アインシュタイン宣言」を宣言しました。ここには次のようなことが書かれています。

——とくにベネチアの試験場、核兵器は想像されていたより遙かに広い範囲にわたって徐々に破壊力を広げることを知らぬ限り——
 ——人間に破壊をもたらすか、それとも人間が戦争を放棄するか——
 8月には広島で、第1回の原水爆禁止世界大会が開かれました。

島の人々は避難のために移住せざるを得ず、ドネニ島の住民は沖ノ島へ、ニコロケタ島の住民はワラナ島へ移されました。

水爆ブラボー実験の後の秋は、ドネニ島から100km離れたロングラップ環礁、同じ100km離れたウリタ環礁の人が逃げ、東軍に殺害されたときは避難施設にまかされていました。被災から3年後に被災の島に戻ったロングラップ島の人びとは、移住による避難生活を続けていたにもかかわらず、災害が繰り返されたことを受け、1985年10月1日付で決断して無人のジャンク島に移りました。

水爆ブラボー爆弾

